

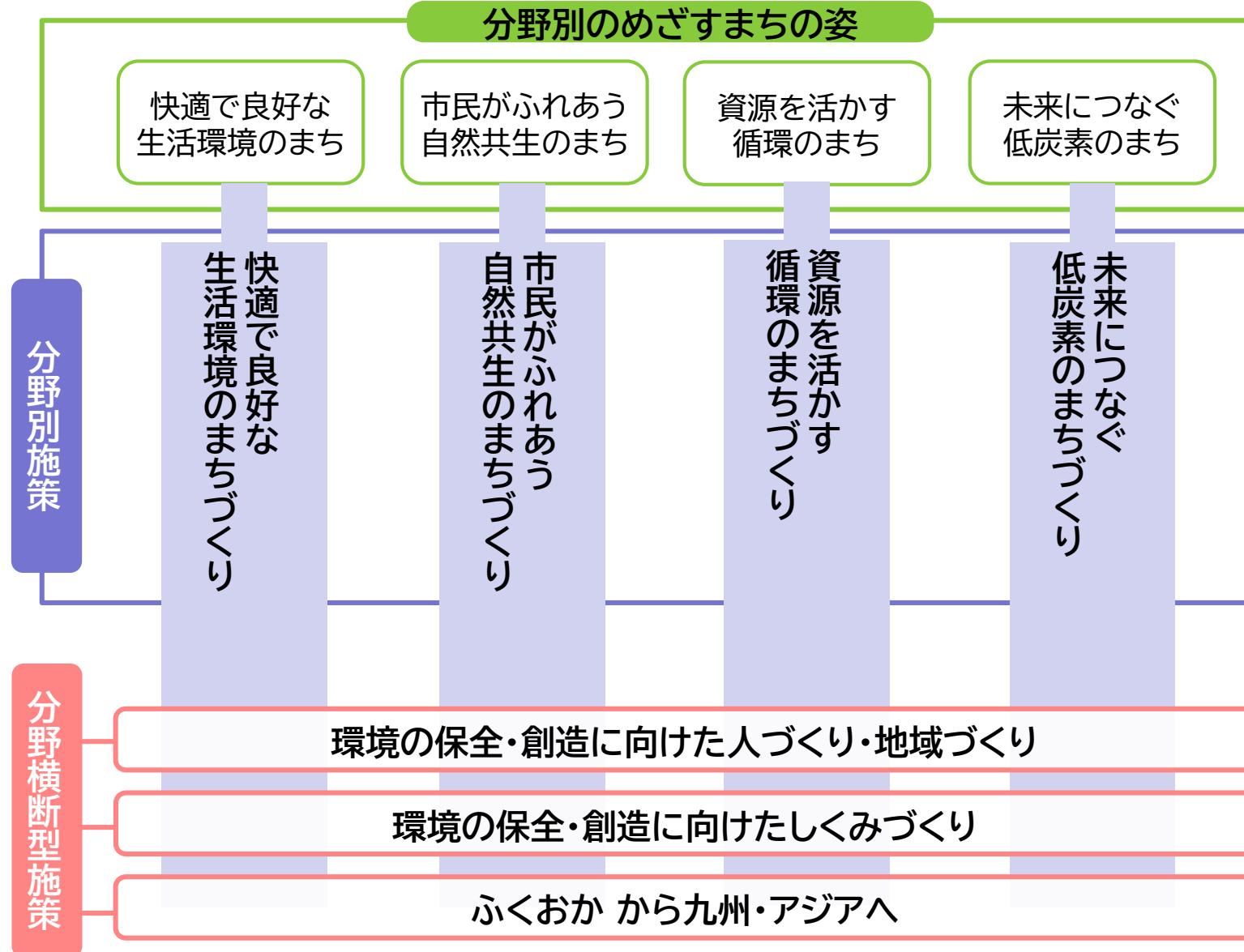
令和3年度 福岡市の環境施策

令和4年11月28日
福岡市環境審議会



環境施策の全体像(福岡市環境基本計画)

めざすまちの姿 豊かな自然と歴史に育まれ、未来へいのちつなぐまち



環境施策の進捗状況等に対する評価

○成果指標の達成状況の基準

A	目標値に向けたペースを達成している又は上回っている
B	目標値に向けたペースを下回っているが、指標は改善している又は現状維持
C	目標値に向けたペースを下回っており、指標が悪化している
一	数値が把握できないため判定不能

○総合評価の基準

成果指標のA=3点、B=2点、C=1点とし、各指標の平均点により評価する。

平均点	評価(基準)	
2.5以上	順調に進捗している	★★★
1.5以上2.5未満	概ね順調に進捗している	★★
1.5未満	進捗が遅れている	★

※特記事項を踏まえ、理由を明示した上で、平均点をベースとした評価(基準)からアップ又はダウンさせることもある。

○評価の一例

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境基準（大気質）の達成率	NO ₂ 100% (2012年度)	100% (2021年度)	100% (2024年度)	A (3)	
環境基準（有害大気汚染物質）の達成率	ベンゼン 100% (2012年度)	100% (2021年度)	100% (2024年度)	A (3)	
環境基準（自動車騒音）の達成率	95.3% (2012年度)	96.0% (2021年度)	100% (2024年度)	C (1)	
環境基準（ダイオキシン類）の達成率	100% (2012年度)	100% (2021年度)	100% (2024年度)	A (3)	

各指標の平均点は
 $(3+3+1+3)/4 = 2.5$ 点となる

★★★
(2.5)

第1節 快適で良好な生活環境のまちづくり

○第1項 黄砂・PM2.5 などの大気汚染物質への対応

- ・黄砂・PM2.5 対策の推進
- ・黄砂・大気汚染物質予測、警報システムの運用
- ・大気汚染物質発生源対策の推進
- ・大気汚染に関する調査・研究



○第2項 良好な生活環境の保全

- ・大気汚染物質発生源対策の推進
- ・監視体制の拡充
- ・アスベスト対策
- ・有害大気汚染物質対策
- ・騒音・振動対策
- ・有害化学物質に関する調査研究と情報提供の充実



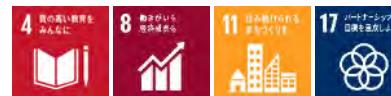
○第3項 気候変動への適応

- ・浸水対策等の推進
- ・渇水対策の推進
- ・森林病害虫等の被害対策の推進
- ・ヒートアイランド対策の推進
- ・熱中症対策の推進



○第4項 歴史・景観を活かした美しいまちの実現

- ・歴史的文化を活かしたまちづくり
- ・モラル・マナーの向上



黄砂・PM2.5対策

黄砂・PM2.5による市民生活や健康への影響を未然に防止するため、予測情報の提供や市ホームページ等による啓発を実施

○黄砂・PM2.5予測情報の発信

予測情報をLINE、防災メール等で発信

- ・黄砂予測情報（23回提供）
- ・PM2.5予測情報（2回提供）
- ・PM2.5ダイヤル（着信件数6,977件）

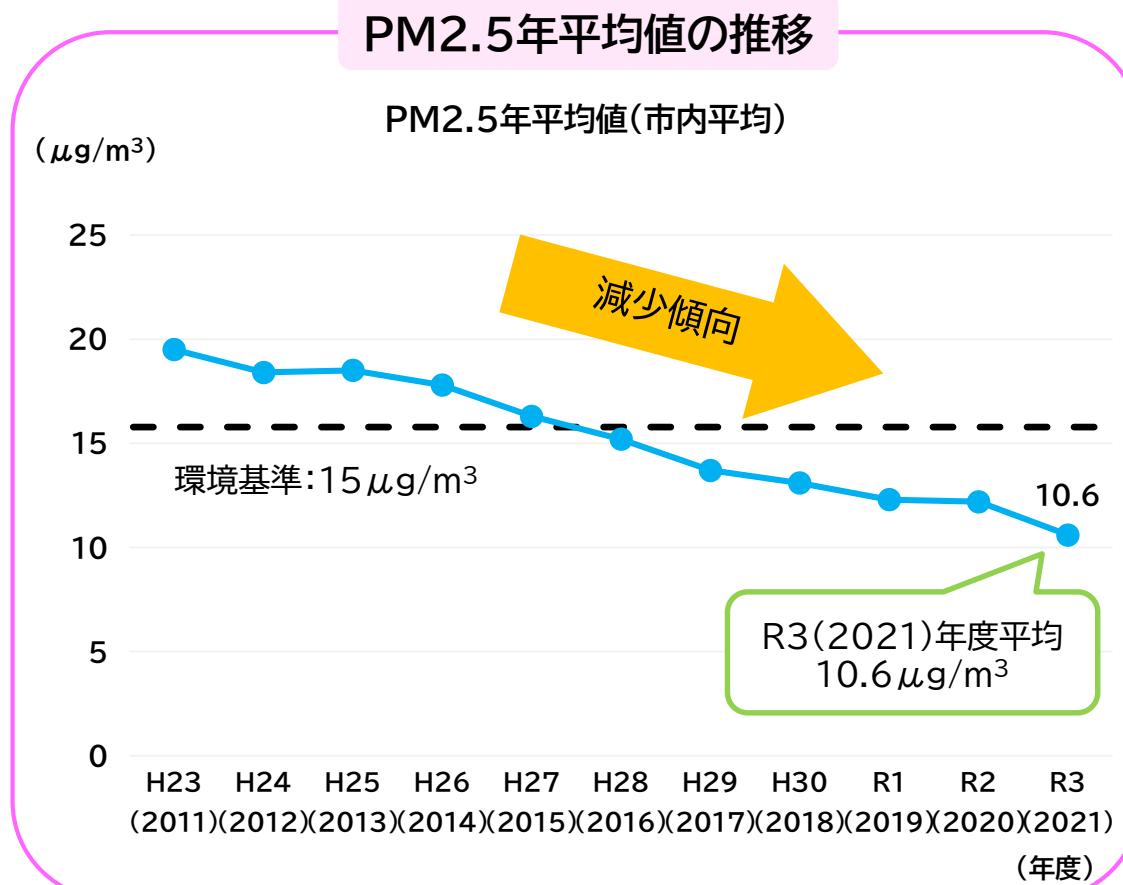
○花粉予測情報の提供

花粉の予測情報を、黄砂・PM2.5と一元化して市ホームページに掲載
(スギ・ヒノキの飛散時期)

○普及・啓発

- ・出前講座
- ・市政だより（令和4年3月1日号）
- ・市ホームページ

など



成果指標の達成状況

○第1項 黄砂・PM2.5などの大気汚染物質への対応

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
PM2.5の 予測精度	見逃し率 48.1% (2013年度)	0.0% (2021年度)	30%以下 (2024年度)	A (3)	★★★ (3)



大気環境

大気汚染防止法に基づき、市内16か所に測定局を設置し、大気汚染物質等の常時監視を実施。測定結果（1時間値）はリアルタイムでホームページに公表。

〈大気環境基準達成状況〉

○:達成

×:非達成

測定局	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	光化学オキシダント
一般環境大気測定局（8局）	香椎	-	○	-	○	○
	東	-	○	-	○	-
	吉塚	○	○	-	○	○
	市役所※	○	○	-	○	○
	南	-	○	-	○	-
	長尾	-	○	-	○	○
	祖原	○	○	-	○	-
	元岡	-	○	-	○	○
自動車排出ガス測定局（8局）	千鳥橋	-	○	-	○	○
	比恵	-	○	-	○	-
	天神	○	○	○	○	-
	大橋	-	○	-	○	○
	別府橋	-	○	-	○	-
	西新	-	○	-	○	○
	石丸	-	○	-	○	○
	今宿	-	○	-	○	-

※市役所局は令和4年3月廃止。令和4年4月に春吉局設置。



〈光化学オキシダント注意報発令状況〉

令和3年度:発令なし

アスベスト対策

- ・副市長をトップとした「アスベスト対策調整部会」を設置し、「アスベスト対策推進プラン（第二次）」（2018年3月策定）に基づき、関係部局が一丸となって施策を実施。
- ・大気汚染防止法の改正を踏まえ、新たに規制対象となった解体工事等への監視を強化。

○ 特定粉じん(アスベスト)排出等作業における監視指導状況

- ・適切な飛散防止措置の実施を確認
- 特定粉じん排出等作業実施届出件数：60件
立入検査件数：届出対象 70件
届出対象外 226件 (R3～)
作業時の測定件数：97件

○ 一般環境測定の実施

- ・大気中のアスベスト濃度について調査を実施
- 調査の結果、0.13～0.32本/L（総纖維濃度）と健康影響はないとされる値であった。

アスベスト対策推進プラン（第二次）

①建築物のアスベスト除去推進

- ・市有建築物のアスベスト除去推進等
- ・民間建築物の使用実態調査
- ・補助制度の活用及び拡充

②解体工事からのアスベスト飛散防止

- ・解体等工事の届出漏れ防止
- ・工事の監視指導／廃棄物の適正処理

③情報の一元化、市民への情報発信

- ・一般環境大気中のアスベスト濃度測定
- ・非飛散性アスベストの調査・研究
- ・市民への情報発信／市民相談への対応

④災害時のアスベスト飛散・ばく露防止

- ・建築物の損壊、解体等に伴う飛散防止
- ・廃棄物の処理に伴う飛散防止
- ・市民への情報発信

成果指標の達成状況

○第2項 良好な生活環境の保全

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境基準（大気質）の達成率	NO ₂ 100% (2012年度)	100% (2021年度)	100% (2024年度)	A (3)	★★★ (2.5)
環境基準（有害大気汚染物質）の達成率	ベンゼン 100% (2012年度)	100% (2021年度)	100% (2024年度)	A (3)	
環境基準（自動車騒音）の達成率	95.3% (2012年度)	96.0% (2021年度)	100% (2024年度)	C (1)	
環境基準（ダイオキシン類）の達成率	100% (2012年度)	100% (2021年度)	100% (2024年度)	A (3)	



気候変動への適応

気候変動による自然環境への影響や、人の健康や生活などへの影響を回避・低減するため、自然や人間社会のあり方を調整する「適応」の取組みを推進

【自然災害に関する対策】

○浸水対策等の推進

- ・博多駅周辺・天神地区における、分流化による合流式下水道改善
(分流化事業約6ha、累計約344ha)
- ・歩道において、透水性舗装を推進 (整備実績: 21,861m²)

○洪水・高潮・内水・土砂災害ハザードマップの提供

- ・区役所の窓口等におけるハザードマップの提供
- ・内水浸水想定区域図に基づく内水ハザードマップ
(博多駅周辺地区) の公表



電気自動車から公民館への給電 (イメージ)

○災害時の電力供給

- ・災害による停電時などに、電気自動車からの給電を可能とする、
給電設備を公民館等に設置
(民間施設を賃借している照葉北公民館、大名公民館、2022年度に整備予定の
飯倉中央公民館を除く)

【暑熱環境に適応したライフスタイル構築】

○緑のカーテンプロジェクト

- ・市有施設: 201施設
- ・コンテスト応募: 87件

○「住宅窓改修の手引き」を活用した広報



緑のカーテンコンテスト受賞作品

熱中症対策

地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進する「福岡市温暖化対策推進会議」の下に「熱中症対策部会」を設置し、熱中症の予防に向けた啓発・注意喚起に取り組んでいる。

○暑さ指数の情報提供

- ・ホームページ、LINE、防災メール等を活用し、暑さ指数の予測情報を提供。
- ・LINEによる暑さ指数情報配信画面のデザインを改良。

○デジタルサイネージを活用した熱中症予防動画の放映

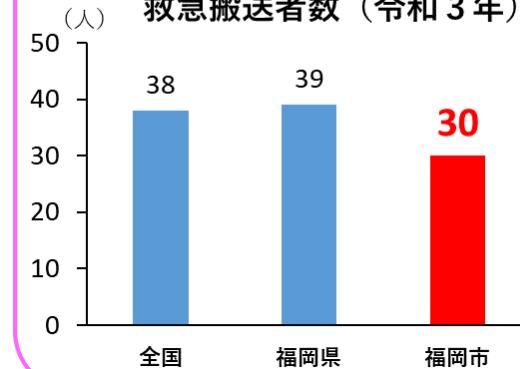
- ・天神エリア大型ビジョン等で予防行動を促す動画を放映。

○高齢者への熱中症予防啓発

- ・市社会福祉協議会ボランティアによる地域の見守り活動等において高齢者向けチラシを配布。

福岡市における 熱中症対策の成果

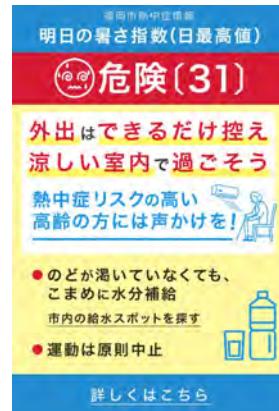
人口10万人あたりの
救急搬送者数（令和3年）



ホームページ



LINE



熱中症予防動画



第2節 市民がふれあう自然共生のまちづくり

○第1項 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成

- ・博多湾の保全
- ・みどりの保全・創出
- ・市街地における緑や水の生態系ネットワークの形成
- ・自然環境調査



○第2項 自然からの恵みの持続的利用の促進

- ・快適な都市環境の維持・向上の推進
- ・生物多様性の恵みを活かした災害につよいまちづくり
- ・生物多様性の恵みを活かしたふれあいの機会の創出
- ・生物多様性の恵みを活かした農水産物の積極的な活用
- ・生物多様性に支えられる文化の継承



○第3項 生物多様性の認識の社会への浸透

- ・市民への生物多様性の認識の理解促進
- ・多様な主体参画の促進、支援
- ・国内外の交流の推進、情報ネットワークの構築

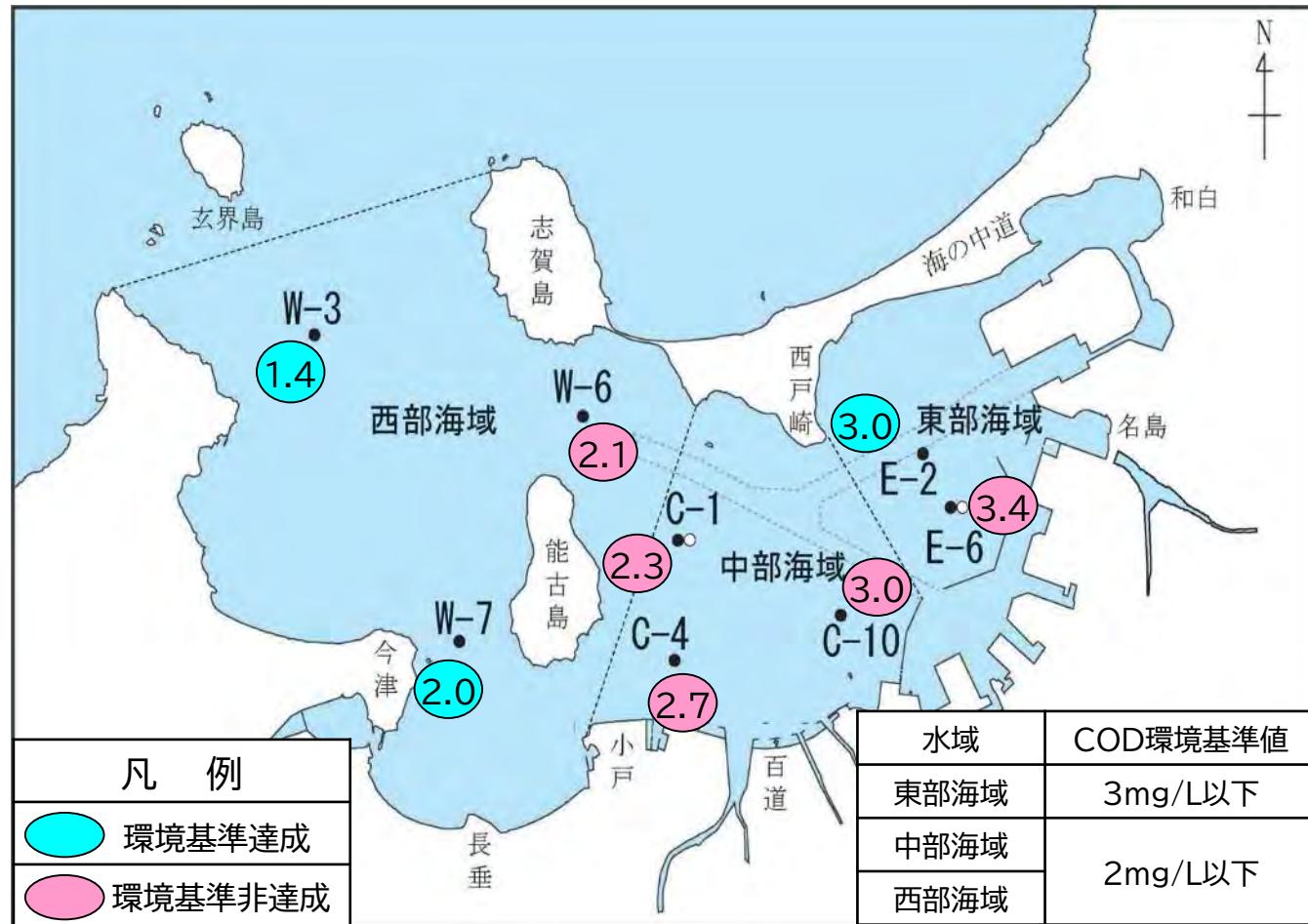


博多湾の保全

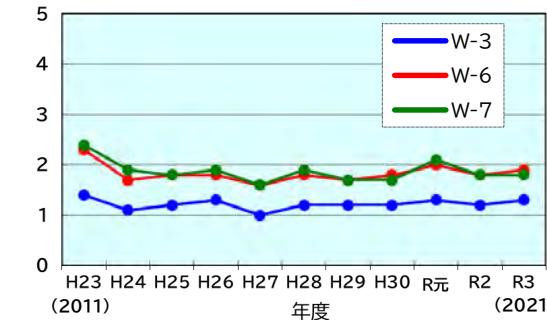
「第二次博多湾環境保全計画」の着実な推進を図るため、計画的なモニタリングを行い、定期的な点検・評価等を実施。

○ COD環境基準達成状況(令和3年度)

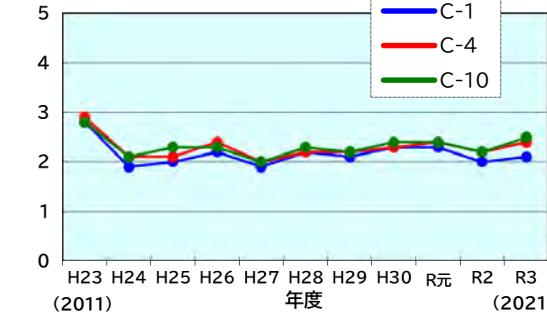
- 令和3年度は、3地点が環境基準を達成。
- 長期的には減少傾向を示しており、この10年間では概ね横ばい傾向。



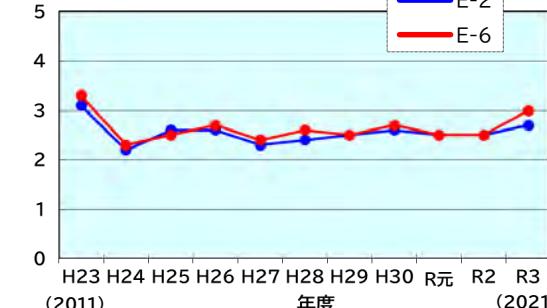
西部海域



中部海域



東部海域



博多湾の保全

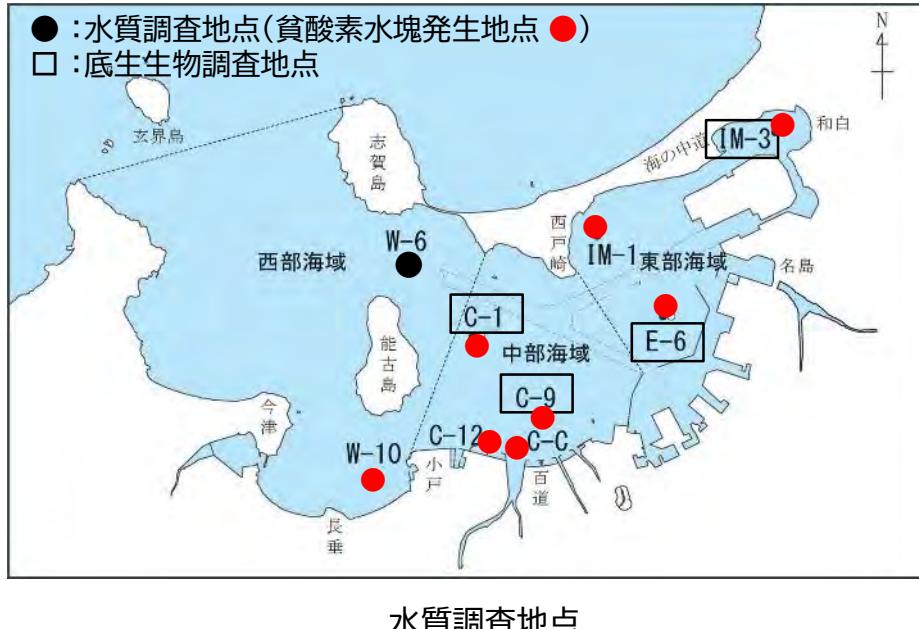
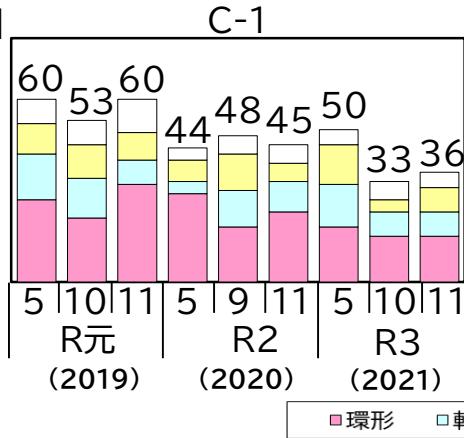
○貧酸素水塊発生状況

調査期間：5月～10月（月1～2回）

令和3年度は、9地点中8地点にて貧酸素状態（海底上0.1mでの溶存酸素量 3.6mg/L以下）を確認。

○底生生物の生息状況

[種]

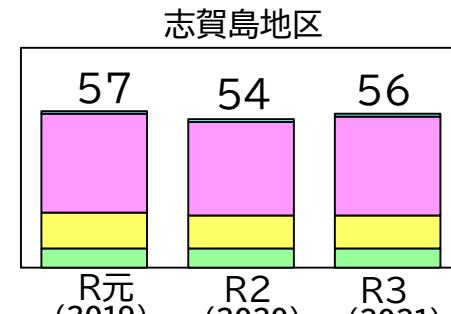
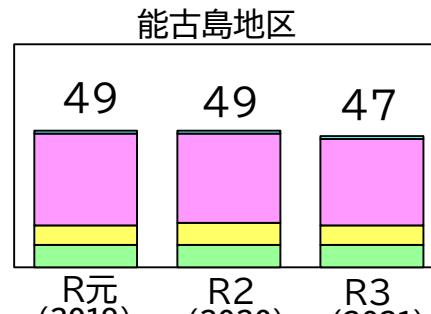
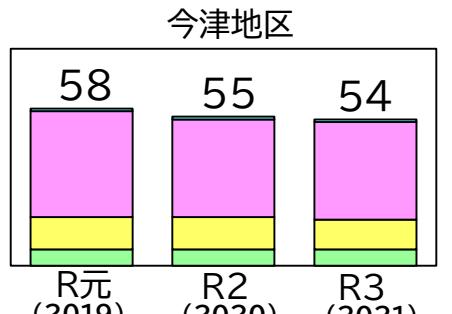


○海藻・海草(アマモ)植生調査

調査期間：4月～翌年2月

いずれの場所においても大きな変化はみられなかった。

[種]



■緑藻類 □褐藻類 □紅藻類 □海草類
海藻・海草(アマモ)植生調査結果

海藻・海草(アマモ)植生調査地点

成果指標の達成状況

○第1項 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
全市域における 緑被面積	18,864ha (2007年度)	18,921 ha (2017年度)	現状維持 (2020年度以降)	A (3)	
農地面積 (農業振興地域の 農用地区域内)	1,559ha (2014年度)	1,553 ha (2021年度)	現状維持 (2023年度※)	B (2)	
森林面積	11,054ha (2010年度)	11,730 ha (2020年度)	現状維持 (2024年度)	A (3)	
環境基準（博多 湾）の達成率	COD 62.5% (2012年度)	37.5% (2021年度)	100% (2024年度)	C (1)	
環境基準（河川 水質）の達成率	BOD 100% (2012年度)	100% (2021年度)	100% (2024年度)	A (3)	
カブトガニの 卵塊・幼生数	卵塊：12 幼生：63個体 (2012年度)	卵塊:64 幼生:47個体 (2021年度)	現状維持 (2024年度)	B (2)	★★ (2.3)

※基本計画の目標年度が2024(R6)年度であるため、本成果指標については、目標年度以降に指標項目及び目標値の再設定を検討する。



生物多様性の認識の社会への浸透

「生物多様性ふくおか戦略」に基づき、身近な自然の恵みの持続的な利用と保全の好循環を生み出すための取組みを推進。オンラインを活用するなど、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策を行なながら実施。

○森の恵み体験活動

様々な機能を持つ森について、市民の関心を高め、森の恵みを発見できる体験活動を実施

実施場所：曲渕水源かん養林、油山市民の森

森のワークショップ開催数：5回

オンライン木工体験開催数：4回

オンライン自然観察会：2回



森のワークショップ
(間伐体験)



オンライン自然観察会

○NPO等交流支援事業

環境保全活動を高めあうネットワークを構築するため、NPO団体や大学、民間企業、行政機関などが交流する活動を実施

ふくおか環境連絡交流会開催数：1回

ふくおか環境活動発表会開催数：1回

生きものと私たちのくらしトークカフェ
開催数：3回



トークカフェ



ふくおか環境連絡交流会
(オンライン開催)

成果指標の達成状況

○第3項 生物多様性の認識の社会への浸透

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
生物多様性を理解し、 その保全を意識して行 動している市民の割合	14.7% (2012年度)	18.8% (2021年度)	35.0% (2024年度)	B (2)	★★ (2)



第3節 資源を活かす循環のまちづくり

○第1項 廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進

- ・様々な媒体等を活用した情報発信
- ・環境教育・学習機会の提供
- ・家庭におけるリサイクルの促進
- ・事業系古紙回収の推進
- ・一般廃棄物排出事業者に対する減量化指導の徹底
- ・ごみ減量・リサイクルの推進に向けた基金の活用



○第2項 廃棄物の適正処理の推進

- ・収集運搬の区分及び体制
- ・びん・ペットボトルの再資源化
- ・資源物の持ち去り防止対策
- ・広域連携
- ・産業廃棄物排出事業者の監視・指導
- ・不法投棄対策



○第3項 水資源の有効利用の促進

- ・節水意識の高揚
- ・水の有効利用
- ・下水処理水や雨水等の有効利用
- ・エネルギーの有効利用
- ・水源地域・流域との連携・協力

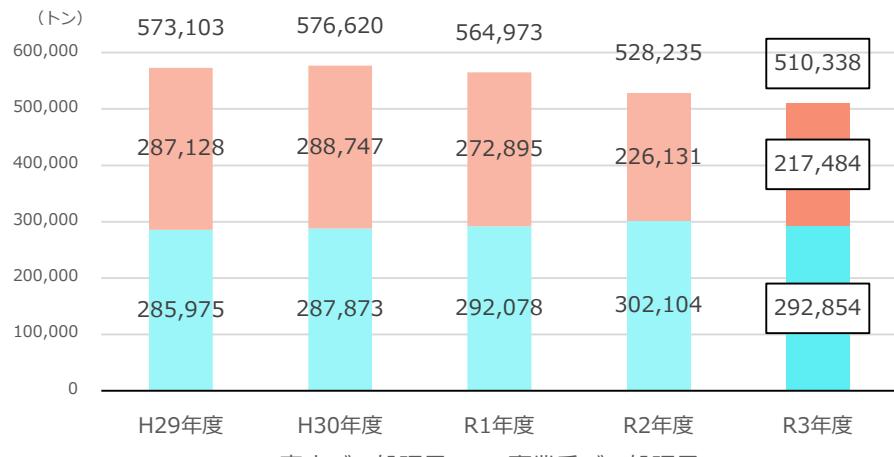


ごみ処理量とリサイクル率

令和3年度の家庭ごみ処理量は令和2年度から減少し、家庭ごみ原単位も大きく減少している。同じコロナ下においても排出動向の変化がみられ、自宅の片づけなどによる集中的な排出が落ち着いたことなどが要因と思われる。

また、事業系ごみについては、引き続きコロナ下の影響を受けるとともに、年度の当初から古紙の分別区分を設けていたことなどにより令和2年度からさらに減少している。

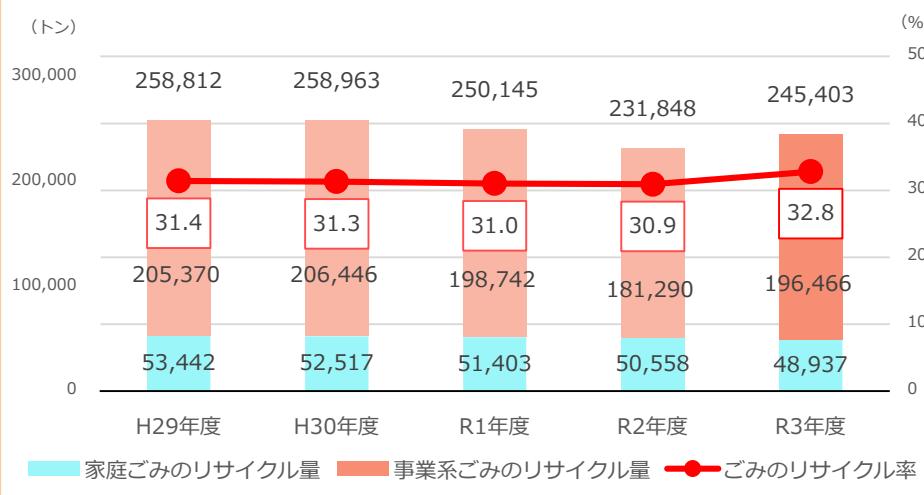
ごみ処理量の推移



(単位: g/人・日)

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
家庭ごみ原単位	499	498	499	513	495

リサイクル率の推移



$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{リサイクル量}}{\text{ごみ発生量 (ごみ処理量+リサイクル量)}}$$

○令和3年度のごみ処理量の合計は約51万トンで、令和2年度と比較して約1万8千トンの減少。

○令和3年度のリサイクル率は32.8%で、令和2年度と比較して1.9%の上昇。

令和3年度ごみ減量施策の実施状況(重点3品目)

古紙

古紙の資源化推進

(地域集団回収等報奨制度、拠点での資源物回収事業)

- ・地域集団回収等 回収量：18,413t (1,902団体)
- ・資源物回収ボックス 回収量： 1,222t (9か所)
- ・雑がみ回収イベントの実施 参加者数：140人 回収量：300kg



千早駅での雑がみ回収

プラ

プラスチックごみ対策

(ラブアース、3R推進事業)

- ・福岡都市圏海洋ごみ問題シンポジウムを開催
開催日：令和3年11月29日 参加者：141名
- ・中学生を対象に海洋ごみ問題啓発の連続授業を実施 参加：1校109名 授業回数：4回
- ・海洋ごみ問題学習教材動画の制作
- ・イベントでのワンウェイプラ削減に向けたモデル事業の実施

(マイボトルの利用推進)

- ・マイボトル用給水スポット供用開始
設置数：8か所 (各区役所及び植物園)
- ・マイボトル協力店の登録
店舗数：67店舗 (R3年度末現在)
(R2年度から+53店舗)



マイボトル用給水スポット

食品

食品ロスの削減

(3R推進事業)

- ・小学4年生へ食品ロスダイアリーの配布
配布数：約16,000部
- ・フードドライブイベントを公共施設で実施
回収量：446個 (147.4kg)
- ・出前講座：13回
- ・エコクッキング：2回

(福岡エコ運動の推進)

- ・福岡エコ運動協力店の登録
店舗数：634店舗 (R3年度末現在)
(R2年度から+63店舗)



福岡エコ運動
協力店ステッカー



フードドライブの様子

成果指標の達成状況

○第1項 廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
ごみ処理量	56.3万t (2012年度)	51.0万t (2021年度)	47万t (2024年度)	B (2)	★★ (2)
ごみのリサイクル率	30.6% (2012年度)	32.8% (2021年度)	37% (2024年度)	B (2)	



清掃工場・最終処分場

○清掃工場・最終処分場におけるごみ処理状況

□ 清掃工場



令和3年度は、4つの清掃工場で市内の可燃ごみ約46.7万トンを焼却処理。また、焼却の余熱を利用し発電。

令和3年度発電量：約2億4,800万kWh
(一般家庭約7万2千世帯分の年間使用量に相当)

CO₂排出削減効果：約9万7千トン

○西部工場再整備の検討着手

「循環のまち・ふくおか推進プラン」の策定に合わせて、令和3年4月より検討に着手。

□ 最終処分場



令和3年度は、東西2つの埋立場で不燃ごみや焼却灰など約9.9万トンを最終処分。

埋立場	西部 (中田)	東部 (伏谷)	合計
埋立容量	238万トン	510万トン	748万トン
既埋立量	108万1千トン (45%)	340万3千トン (67%)	448万4千トン (60%)

総残余容量：約299万6千トン (令和4年3月末時点)

不法投棄対策

不法投棄の防止に向けて、パトロールやカメラによる監視を行うとともに、地域活動支援や広報・啓発を実施。

○パトロールやカメラによる監視

- ・市職員によるパトロール：約100回/年
(市内4コース)
- ・委託業者によるパトロール：約200回/年
(市内5コース)
- ・監視カメラ設置：53か所 86台



監視パトロール・監視カメラ



不法投棄物

○地域活動支援、市民への啓発

- ・地域の不法投棄防止活動に対する支援
15団体（16校区）に、月額2万円を助成
- ・ポスターや警告看板等の作成、設置
- ・12月「福岡市不法投棄防止強化月間」
広報・啓発を実施



不法投棄警告看板



地域パトロール・回収活動

成果指標の達成状況

○第2項 廃棄物の適正処理の推進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
不法投棄処理量	87 t (2012年度)	27t (2021年度)	39 t (2024年度)	A (3)	★★★ (3)



第4節 未来につなぐ低炭素のまちづくり

○第1項 省エネルギーの促進

- ・市民・事業者の省エネ行動の支援
- ・脱炭素社会の構築に向けた情報提供等
- ・市有施設等における省エネの推進
- ・事業所省エネ技術導入サポート事業（ソフトESCO事業）等の利用促進
- ・エネルギーの効率が良くクリーンな次世代自動車の普及促進



○第2項 再生可能エネルギー・エネルギー・マネジメントシステムなどの導入・活用

- ・市有財産等を活用した再生可能エネルギーの率先導入
- ・市民や事業者による再生可能エネルギー等の導入促進



○第3項 低炭素型の都市構造及び交通体系の構築

- ・公共交通幹線軸の強化
- ・公共交通の利便性向上と利用促進
- ・道路交通の円滑化
- ・自転車で移動しやすい交通環境づくり



省エネルギーの促進

エネルギー消費効率に優れた機器、電気自動車等の導入等を促進するとともに、市民・事業者の省エネ行動を支援することにより、環境負荷の少ないライフスタイルやビジネススタイルへの転換を促進

【市民の省エネ行動支援】

○ECOチャレンジ応援事業

- ・市民の省エネ行動に対して交通系ICカードポイントを付与：1,295世帯参加

○次世代自動車普及促進事業

- ・電気自動車等購入助成：214台
- ・充電設備設置助成：4基

○住宅用エネルギーシステム導入促進事業

- ・システム設置経費の一部を助成
(蓄電池、V2Hシステム、家庭用燃料電池、太陽光発電)
導入が図られたシステム数：1,019基

【事業者の省エネ行動支援】

○事業所省エネ計画書制度

- ・事業所による自主的かつ計画的な省エネの支援
参加事業所総数：40件

【福岡市役所における取組み】

○市有施設へのLED照明の導入

- ・道路照明灯のLED化：505基
- ・地下鉄駅照明のLED化：2駅（19駅中19駅完了）

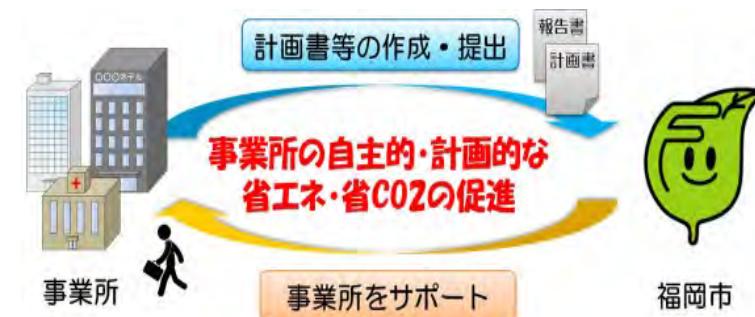
「脱炭素（ゼロ・カーボン）
ECOチャレンジキャンペーン」を実施

CO2排出削減効果の高い
「省エネ家電の購入」を報告した場合
通常 2,000ポイント を


10,000ポイント
に拡充



ECOチャレンジ応援事業

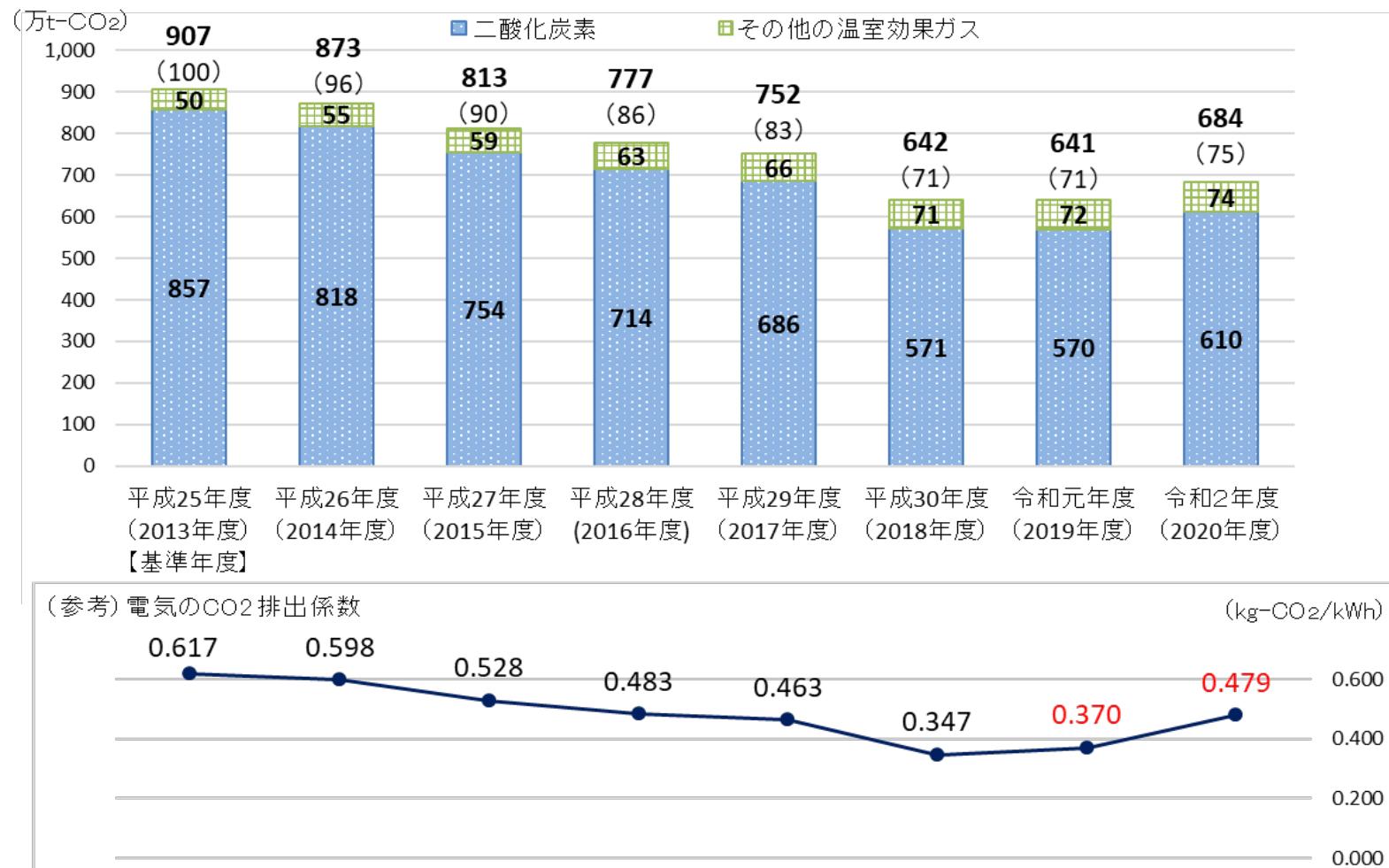


事業所省エネ計画書制度

温室効果ガス排出量の推移

2020年度の温室効果ガス排出量は、基準年度（2013年度）と比べて約25%減少。

前年より二酸化炭素排出量が増加した理由は、原子力発電所の定期検査に伴う停止日数の増加等により、電気のCO₂排出係数（0.370→0.479）が上昇したことが考えられる。

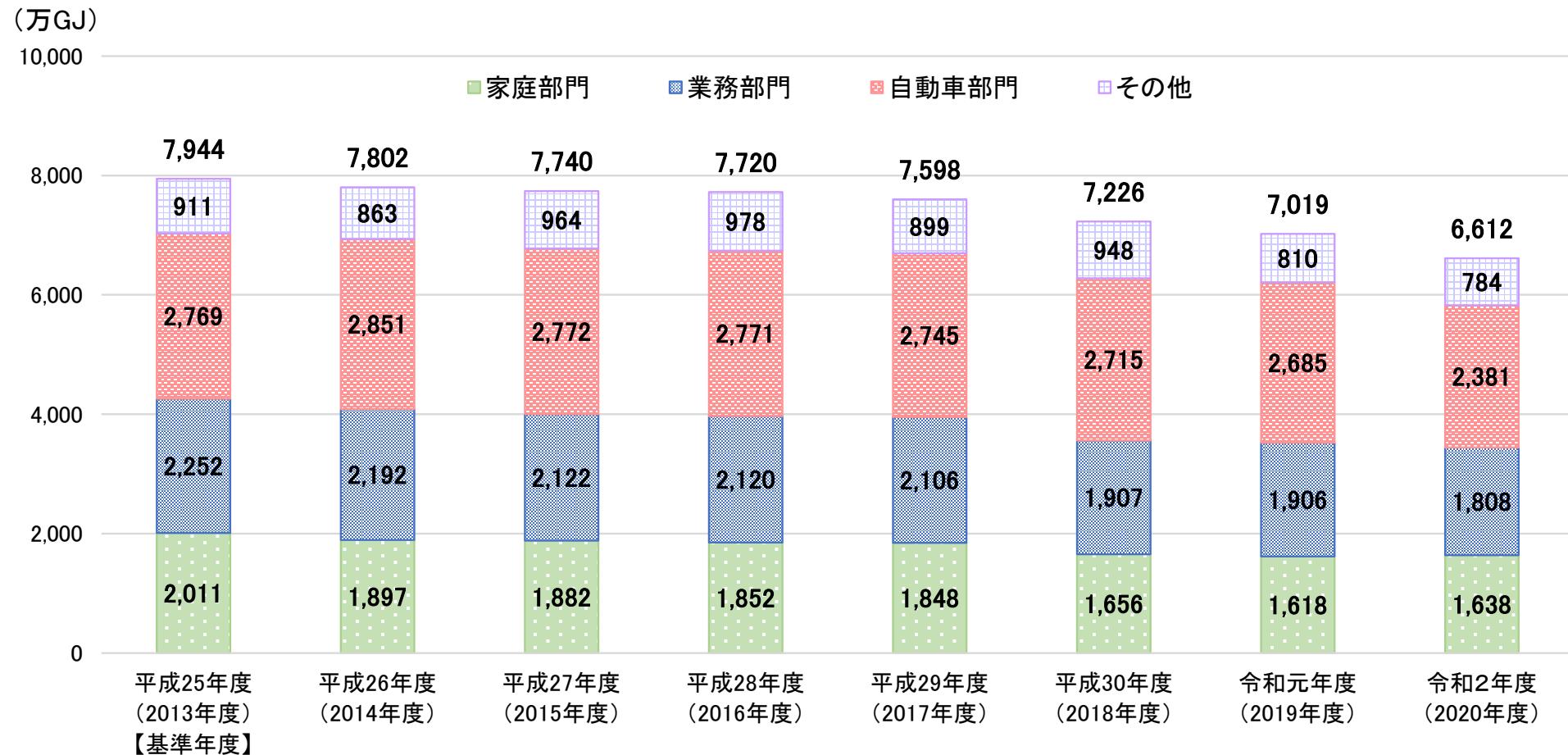


※電気のCO₂排出係数の増加（0.370→0.479）要因（九州電力(株)ホームページより抜粋）

2020年度は、販売電力量が減少した中、原子力発電所の発電電力量が定期検査に伴い減少したこと、火力発電所の発電電力量が増加したことから前年度に比べCO₂排出係数が上昇しました。

エネルギー消費量の推移

2020年度のエネルギー消費量は、6,612万ギガジュール（GJ）であり、減少が続いている。
(前年度比6%減少、基準年度（2013年度）と比べて約17%減少。)



成果指標の達成状況

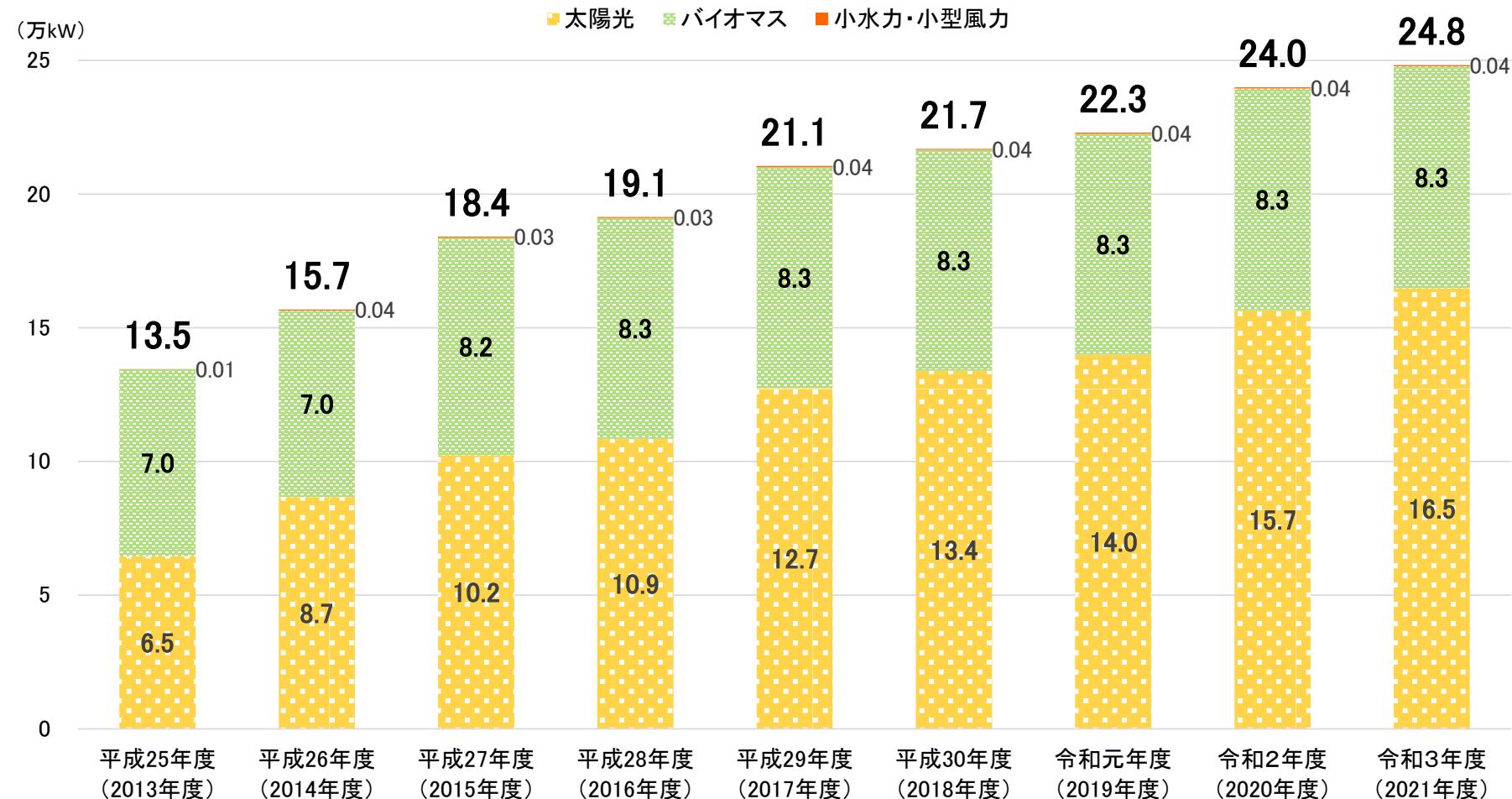
○第1項 省エネルギーの促進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
家庭部門における 1世帯あたりの エネルギー消費量	30.1キログラム (2006～2010年度 平均)	20.1キログラム (2020年度)	22.1キログラム (2024年度)	A (3)	★★★ (3)
業務部門における 延床面積1m ² あたりの エネルギー消費量	1.08キログラム (2006～2010年度 平均)	0.73キログラム (2020年度)	0.88キログラム (2024年度)	A (3)	★★★ (3)



再生可能エネルギー設備導入量の推移

2021年度の再生可能エネルギー設備導入量は、24万8千kWであり、前年から約8千kW増加している。FIT制度を活用した民間での太陽光発電設備の導入拡大により、発電規模は年々増加している。



再生可能エネルギー導入の取組み

【市有施設への再生可能エネルギーの導入】

令和3年度は、早良南地域交流センター、博多区役所、南当仁公民館、柏原公民館の4施設に太陽光発電を設置。

令和3年度末現在、208施設に、合計約9.2万kW導入。

※()内は前年度比

種別		施設数	発電出力(kW)	備考
太陽光発電	メガソーラー	6	6,519	・大原メガソーラー発電所 ・蒲田メガソーラー発電所 ・青果市場太陽光発電所 ・西部水処理センター太陽光発電所 ・新西部水処理センター太陽光発電所 ・蒲田第2メガソーラー発電所
	その他	193 (+4)	2,599 (+22)	公民館、小中学校等
バイオマス発電	廃棄物発電	4	80,900	清掃工場 [東部、西部、臨海、福岡都市圏南部]
	その他	2	2,099	水処理センター[中部、和白]
小水力発電		3	222	・浄水場[瑞梅寺、乙金] ・曲渕ダム
合 計		208 (+4)	92,339 (+22)	※屋根貸し等による事業者設置を含む ※数値は小数点以下を四捨五入端数処理

【民間施設における再生可能エネルギーの導入】

○住宅用エネルギーシステム導入促進事業(再掲)

- ・システム設置経費の一部を助成(蓄電池、V2Hシステム、家庭用燃料電池、太陽光発電)
導入が図られたシステム数: 1,019基

成果指標の達成状況

○第2項 再生可能エネルギー・マネジメントシステムなどの導入・活用

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
再生可能エネルギーの設備導入量	11万1千kW (2012年度)	24万8千kW (2021年度)	30万kW (2024年度)	B (2)	★★ (2)



分野横断型施策

◆第1節 環境の保全・創造に向けた人づくり・地域づくり

○第1項 環境行動を担う人材の育成

- ・地域におけるリーダーの育成
- ・あらゆる年代に対する環境教育・学習

○第2項 地域環境力の向上

- ・環境に関する多様な人材の把握とそのネットワーク化
- ・活動のネットワークづくり



◆第2節 環境の保全・創造に向けたしくみづくり

○第1項 環境配慮のための手続きや規制等の整備・運用

- ・環境影響評価の推進
- ・福岡市環境配慮指針の適切な運用

○第2項 市民・事業者の自主的な活動等に対する支援

- ・表彰・助成

○第3項 環境情報の継続的な収集・発信と共有



◆第3節 ふくおか から 九州・アジアへ

○第1項 近隣地域や九州・国内各地域との連携

- ・福岡都市圏の市町との環境協力の推進

○第2項 国際環境協力の推進

- ・海外からの研修生等の受け入れ
- ・国際機関との連携による技術協力
- ・アジアの環境改善に向け市民・事業者・行政が連携した取組みの推進



環境行動を担う人材の育成

環境活動の担い手である市民団体・学校・事業者等あらゆる主体や年代に対する環境教育や学習を推進。

○環境わくわく出前授業

・講師派遣事業

環境の専門的知識や経験を備えた「環境教育・学習人材リスト」登録者を講師とし、学校等での出前授業を実施。

実施回数：17回



環境わくわく出前授業

・指導者向け講座

幼稚園や保育園の職員を対象に、環境教育について学習する「事前研修」と「実践講座」を実施。

出前講座実施回数：12回（参加教員数：118人、参加園児数：715人）

○環境教育副読本 拡充

・地球温暖化に関する内容の拡充

環境学習教材として、小学校4年生及び5年生向けの副読本を作成。

令和3年度は副読本の時点修正及び主に中学生を対象とした啓発リーフレットを作成。



環境教育副読本



地球温暖化リーフレット

成果指標の達成状況

○第1項 環境行動を担う人材の育成

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境教育・学習 人材リスト登録者数	44人 (2013年度)	58人 (2021年度)	80人 (2024年度)	C (1)	★★ (特記事項)
特記事項	新規登録者もいた一方、新型コロナウイルス感染症の影響により講師を辞退した方も多く、前年度と比較して登録者数は減少しているものの、前年度を除いた、前々年度以前からの推移では登録者数は増加傾向にある。				



市民・事業者の自主的な活動等に対する支援

市民や事業者等が主体的に取組む環境保全活動を全市に広げていくため、各主体の表彰や活動への助成を実施。

○福岡市環境行動賞

- ・本市の環境保全・創造に貢献し、顕著な功労・功績のあった個人・団体・学校・事業者を表彰
- ・令和3年度は第11回表彰対象者の募集を実施
- ・募集にあたり、募集チラシの作成や、市ホームページへ掲載、学校・事業者への専用チラシの配布など、応募者増に努めた。
- ・令和3年度 応募件数 104件
(前回応募件数 90件)



第11環境行動賞募集パンフレット



学校専用チラシ



事業者専用チラシ

○ 未来へつなげる環境活動支援事業(旧エコ発する事業)

- ・市民団体やNPO法人などが主体的に行う環境活動（地球温暖化対策、ごみ減量・3R、自然環境保護、環境美化、環境教育・SDGsの普及啓発等）に対する補助金等の財政支援及び広報支援
- ・令和3年度補助団体数：13団体（前回5団体）



地域での学習会

国際環境協力の推進

廃棄物埋立技術「福岡方式」に係る技術協力をはじめ、アジア・太平洋地域を中心に環境分野における国際協力を展開。

○ヤンゴン市ごみ埋立場の「福岡方式」整備事業 (国連ハビタットとの共同事業)

火災防止対策、既存埋立場の改善及び新規埋立場の設計・整備等

- ・事業期間：2019年度～
- ・総事業費：約6億円

→令和3年度はオンラインによる技術支援を実施(11回)

<参考>平成10(1998)年度からの実績

○海外への専門家派遣 累計：14ヶ国 159名

○廃棄物埋立技術「福岡方式」を学ぶ研修生の受入 累計：33ヶ国 199名

○環境関連施設への視察・見学の受入 累計：70ヶ国以上 5,906名

2019年8月



提供: SWAN-Fukuoka

2021年3月



提供: 国連ハビタット

2020年9月



提供: 国連ハビタット

2022年3月



提供: 国連ハビタット



オンライン技術指導
(廃棄物の転圧指導)